



居宅介護支援事業所

介護屋みらい



介護の「みらい」よもやま話

代表取締役社長／宮崎直樹



1965年

65歳以上1人に対して、20～64歳は **9.1人**



肩上げ型

2025年

65歳以上1人に対して、20～64歳は **2.5人**



騎馬戦型

2050年

65歳以上1人に対して、20～64歳は **1.2人**



肩ぐるま型

ご近所づきあいが高齢者を救う 地域が高齢者を支える時代

皆様、こんにちは。前号より、毎月このページをお借りしまして、介護に関わる記事を掲載させて頂き

地域包括ケアシステムとは

さて、前回の終わりに、今月は「地域包括ケア」について触れます、という形で締めさせて頂きましたが、みなさん「地域包括ケア」または「地域包括ケアシステム」という言葉をご存じでしょうか。実は日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

現在65歳以上の人口は、3000万人を超え（国民の約4人に1人）2042年には、約3900万人となると、予測されます。

このような社会情勢の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年以降は、医療や介護の需要が、今よりもさらに増加することが予想されます。その対策として、厚生労働省が発案したのが、「地域包括ケアシステム」なるものです。

厚生労働省のホームページの言葉

をそのまま伝えると、「2025年（平成27年）を目前に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています」ですって。訳が、分かりません。もっと簡単に、みらいの猫型ロボットのアイテム、ほんやくコンニャクを使用すると、「みんな、この街で最後まで暮らせるように頑張りましょう」って事です。

みんなで作る、住みやすい町

みんなでは、医療や介護を受ける人、医療や介護に関わる人、それ以外の町で暮らすすべてのみなさんの協力を得て、住みやすい街にする事です。街のレストランも、おしゃれな美容院も、活気のある商店も、警察も消防も、学校も町会もありとあらゆる人たちで、町を築いていく事だと、私は考えます。

大袈裟に聞こえるかもしれませんが

が、この介護の現場に10年以上いてはつきりしていることは、「介護現場だけでは要介護者を守る事は限界を迎える」という事です。

これは、介護従事者が減っている事もそうですが、なにより、要介護者の数が多くなる事で、介護難民と呼ばれる方々が出てきてしまう可能性があります。

街の再構築については、3・11以降あらゆる所で、様々な人たちが訴えています。高齢化問題の解決の第一歩も、地域コミュニティーの構築で、皆さんの当事者意識が大切になると思います。

今回は、「地域包括ケア」の一助となる、介護保険について説明をさせて頂きます。

居宅介護支援事業所 **介護屋みらい**

住 船橋市薬円台 4-16-4-202

☎ 047-404-2660

介護のこと、研修のこと、子育てのこと・・・などなど日々のことをブログでUPしています。

アメブロ宮崎直樹

第1回 **介護屋みらい** 発！ 対象 船橋市と江戸川区の介護保険事務所の方

厚生労働省担当者とともに考える「地域包括ケアシステム」勉強会

8月11日(火) 開演 18:30～20:30 (18:00開場)

開催場所：船橋市勤労市民センター 第1会議室（船橋市本町4-19-6）

参加費：1000円（税込・資料代含む） ※当日支払い

第1部	基調講演	18:30～19:10	講師：津曲共和氏（前厚生労働省老健局総務課課長補佐）
第2部	グループワーク	19:10～19:50	「地域包括ケアシステムの完成形とは何か」
第3部	グループワーク発表	19:50～20:30	「厚生労働省へ逆に提言を」